

## 教材の本質をふまえた体育指導のあり方

～ 体づくり運動を通して ～

### I 研究の内容

#### 1 研究の具体的内容

- (1) 理論研究や授業づくりの話し合い等を通して、子どもたちが主体的に取り組むことができる学習内容や学習過程を考え、授業案を作成する。
- (2) 授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い、今後の授業や研究に活かしていく。

#### 2 授業研究

3年「元気100倍！3年生」（体づくり運動）

授業者 小宮山公仁教諭 東雲小学校

6年「目指せ！体力アップ！！」（体づくり運動）

授業者 堀井 勝彦教諭 勝沼小学校

##### (1) 授業実践から学んだこと

- ・学年の発達段階に応じた内容の授業づくりが分かった。
- ・体づくり運動の運動例を授業の中で学ぶことができた。
- ・いろいろな種目、また取り組み方があり、自分の授業への参考とすることができた。
- ・子どもに力を付けるための、様々なアプローチでの授業が研究できた。体づくり運動のアプローチの仕方は、まだまだ多様にあると感じた。
- ・「体づくり運動」という個々の取り組みが中心になる内容の中で、相互評価という子ども同士の関わりも大切にしており、それが子どもの意欲へとつながっていく様子が見られた。
- ・子どもたちの多様な動きを引き出すための具体的な運動例が参考になった。
- ・「体づくり運動」がどういうものか、何を教えるのかつかむことができた。
- ・子どもに何を教えるのか、教師が明確にそれを持ち、授業中でしっかりと伝える場を作ることが大切であることが分かった。

##### (2) 授業実践から、今後さらに研究を深めたいこと

- ・文科省から出されている事例以外にどのような運動が有効なのか、効果のある多

- くの事例を追求していきたい。
- ・子どもたちが楽しみながら体力が向上していく運動実践例を積み上げたい。さらに全ての子どもが日常生活の中で楽しさを味わう中で、体力の向上を図っていけるような研究を深めたい。
  - ・運動の日常化を図っていく上で、授業以外にどの程度、どのような取り組みをさせるか、児童の負担や意欲との関わりも合わせて考えていく必要がある。
  - ・「体づくり」が低学年にも導入され、低学年の授業を考えていくことも学校全体の児童の6年間にわたる体力向上を考えると重要である。
  - ・実践を多く積み重ね、より良い指導法を今後も研究していくことが大切である。

## Ⅱ 成果と課題

### 1 成果

- ・新しい領域へと手をつけ、今年度までに、様々な内容の授業実践ができた。
- ・2年間の実践を踏まえ、さらに研究を深めていくことができた。
- ・ブロックごとに理論研究をすることで、体づくり運動について理解が深まった。
- ・授業実践が積み重ねられてきたこともあって充実したものになっている。
- ・「体づくり運動」に対する個々の教師の意識がさらに高まった。
- ・授業実践や資料等で様々な運動の工夫や種目を知ることができた。
- ・運動の日常化が図られた指導計画があり、その方法や成果についても学ぶことができた。

### 2 課題

- ・3年間で研究した成果が多くあった。よい実践を積み重ねてきたが、「体づくり運動」の領域はまだまだ研究が必要である。
- ・運動の日常化について、児童の意欲の向上も促しながら、今後も考えていきたい。
- ・「体づくり運動」を一単元として、1時間授業で扱うか、帯として授業に取り入れていくか、どちらが効果的か今後も考えていく必要がある。
- ・実際に各学校で、「体づくり運動」がどのように実施されているのか。本格実施を控えて低学年の実情からも考えていきたい。
- ・低学年の授業実践、動きの事例を増やすことも課題である。

(部長 須藤 将行)